

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200128		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家佐太中町 ユニット1		
所在地	大阪府守口市佐太中町7丁目10-20		
自己評価作成日	令和2年6月10日	評価結果市町村受理日	令和2年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JikvsovcD=2793200128-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年7月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・日々の生活の中で気づきを持ち、今出来ていることの維持できるように、生活リハビリを中心に、屋上に行き洗濯干し、取り込み、たたむを行っています。
 ・炊事は包丁を使用したり盛り付けをされたりとそれぞれ個々の状態に合わせて共にして頂いています。
 ・掃除においては1日3回フロアのモップかけなどを職員と共にして頂いています。
 ・月2回(第1火曜日)カラコ体操教室を実施し、体操後は1階2階ご利用者合同でカラオケを楽しみながら、お茶会をしています。近隣の方にも参加して頂けるようにお声かけをしています。
 ・天気の良い日は、近くの神社に散歩に行き、下肢筋力低下を防ぐと共に気分転換を兼ね外出の機会を増やしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは今年度職員が大切にしている事等、思いを出し合いホーム独自の理念を見直し、より良いチームケアに努めています。利用者の思いや出来る事の継続に努め、日々の生活の中で洗濯物を干すところからたたむまでの一連の作業をはじめ、調理や食器洗い、リビングの床のモップ掛けや居室の掃除等生活リハビリに取り組んでいます。様々な外出の支援にも取り組んでいましたが、現在感染症流行の中で外出が難しくなっており玄関先での外気浴やドライブの他ホーム内でのレクリエーションを増やし、馴染みの音楽をかけホーム内を楽しみながら歩行する等工夫し下肢筋力の維持を図っています。地域とのつきあいにおいては近くの天満宮での祭りや小学校での自治会行事に参加する中で清掃活動等さらなる交流の機会を持ち、地域の一員として交流に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、相談室掲示し玄関にも置き観覧できるようにしています。	今年度ホーム独自の理念を、職員間で思いを出し合い見直しています。職員が日々の支援の中で大切にしているコミュニケーションや尊厳、その方らしい生活等を盛り込み、会議や日々の話し合いでチームケアに取り組み実践に努めています。また職員一人ひとりがホームビジョンについて具体的な支援を考える機会があり理念にもそうように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様と地域の夏祭り・秋祭り・盆踊り・神社の清掃に参加させて頂いています。	自治会に入会し利用者と一緒に小学校で行われる高齢者に向けた行事や運動会等に参加したり、近くにある天満宮の夏祭りや秋祭り等に参加し、昨年より清掃活動にも参加しています。散歩やホーム周りの掃除の際にも挨拶をしたり、月2回の介護予防のカラコロ体操時には地域の方に声掛けを行い、また銭太鼓等のボランティアの来訪もあるなど地域との交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物と外出することにより認知症に対する理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各方面からいただいた意見は、職員間で話し合い実践しています。報告書などは玄関に置き観覧できるようにしています。	会議は多数の家族や町内会長、社会福祉協議会、地域包括支援センター職員の参加を得て隔月に開催し、今年度は働き掛けにより町内会長の参加を得ています。会議では利用者の状況や行事の報告と予定、研修、人員体制、事故やヒヤリハット等の報告、身体拘束適正化委員会を行い意見交換をしています。カラコロ体操の地域の方の参加について話し合う等有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所やくすのき連合に相談しています。	申請や議事録提出の際、不明な点があれば直接市役所や近隣3市で構成されているくすのき連合の窓口に出向いています。ケアマネ連絡会や集団指導の参加、実地指導を受け、その他研修や注意喚起等の案内をもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修にて必須項目の為、受講・伝達研修し周知しています。	年に2回身体拘束に関する研修を行い、欠席の場合は伝達し職員全員が報告書を提出しています。言葉による行動制止については管理者から説明し、会議の中でも話し合っています。家族の了解を得て夜間のみ安全の為センサーマットを使用している利用者もいますが定期的に必要性について話し合いを行っています。玄関は開錠していますがユニット入口は施錠しており、外出希望の利用者には玄関先に出るなど気分転換を図ってもらっています。	

グループホームたのしい家佐太中町 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年研修にて必須項目の為、受講・伝達研修し周知しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度が分かる外部研修や施設内での会議にて、全職員が周知し参加を促したいきたいと思います。現在成年後見人制度をされている方もいられます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、ご家族様にかくにんしながら、質問や疑問があれば、しっかりと説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見を頂けるようにし、運営推進会議などにも意見をいただいております。	利用者の要望は日々の中で聞いており外出希望に応じて好きなパンを食べに行くなど個別や少人数で出掛けています。家族には毎月写真入りの便りと担当職員から詳細な利用者の様子を記入した手紙を送付し、意見は来訪時や運営推進会議時、年1回の法人アンケートで聞いています。意見を受けて下肢筋力低下予防に日々のラジオ体操や音楽に合わせて皆でフロアを歩いたり、清潔保持できるよう掃除用具の準備やこまめなチェックに努めるなどサービスの向上に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設会議にて意見を聞いています。	職員の意見は日々の中で聞いており、個々の利用者のケアに関する意見が多く出されており会議の際にも意見が出され話し合っています。排泄介助時の支援方法や物品の購入など職員の意見を運営に反映させています。年に1回法人による従業員満足度調査があり、また管理者による年1回の面談の他様子を見たり、職員からの申し出があれば随時の面談を行意見や思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社による年に一回の従業員満足度調査やキャリア段位制度・コーチング研修などにより働きやすい職場にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制や人員体制によるが、研修参加に努めています。		

グループホームたのしい家佐太中町 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、2ヶ月に1度のグループホーム連絡会やケアマネ連絡会に参加し、意見交換しています。その他、本社で行われている研修や会議で他事業の職員と勉強会に参加しています。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に施設見学をしていただき、不安や要望などを伺い、納得を得て入所していただけるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、疑問や質問、要望等があればいつでも確認して頂けることをお伝えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面接させていただき、ご本人様の状況やご家族様のお話にしっかりと耳を傾け、ご本人様のニーズに応じた支援を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様同士の関係を大切にしています。生活リハビリとして洗濯や炊事・掃除を共にし関係づくりを務めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への報告は常に行えるようし、本人様に良い支援ができるように一緒に考えていくようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様・知人・親戚関係の方々との面会に特に制限なく居室にてゆっくりと過ごして頂いています。	友人や以前近所に住んでいた知人、親戚の来訪時には居室での面会を基本とし寛ろいでもらっています。感染症禍の現在は玄関先での面会に替えるなど工夫しています。近隣からの入居には馴染みの場所である天満宮への外出支援をしています。家族の協力を得て正月に自宅に帰る方や墓参り、法事に出掛けたり、馴染みの美容院やかかりつけ医に行く方もいます。	

グループホームたのしい家佐太中町 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を、孤立しないように自然な関わりができるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際、何かあれば連絡くださいと伝えてさせて頂いています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様それぞれの意向を、くみ取りながら本人らしい暮らしができるように、常に話し合い実践しています。	入居前に自宅や施設、病院等へ訪問し、利用者や家族から生活歴や要望、趣味や趣向、身体状況等を聞きフェイスシートにまとめ、関係者に以前の情報ももらっています。入居後は利用者との日々の関わりからの気付きを介護日誌に記録し、意思疎通の困難な場合はサービス担当者会議や日々の中で話し合い本人本位に検討し思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様来宅された際、情報を聞き入れ常に職員間で周知しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の日々の様子を観察し、少しの変化に気づけるように、記録や連絡ノートを活用し生活環境をつくるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたって、ご家族様のご意向を聞きながら、会議で話し合いプラン作成を行っています。	利用者や家族の意向やケアチェック表でのアセスメントを基に介護計画を作成し、6か月毎を基本に見直しを行っています。日々の中で職員は意見を出し合い、見直しの際には本人と家族の希望を聞き、再アセスメントや評価を行い、サービス担当者会議を開催しています。新しく計画が出来た際には家族だけでなく本人のサインをもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア記録に記載し、申し送り・会議で情報を共有しながら意見交換しています。		

グループホームたのしい家佐太中町 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様状態やニーズに変更があった場合は速やかに会議を開催し、その時に応じたサービスの提供をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神社、スーパー、市役所等がいしゆつの際はご利用者様と一緒に行き支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回訪問診療には詳細に情報ご家族様からの疑問や要望を伝えています。	入居時に希望のかかりつけ医の継続が可能な事や協力医の説明を行っており、継続し家族対応で受診する場合は書面で情報を渡し口頭で報告をもらっています。協力医による往診は2週間に1回受けており、24時間連絡可能で指示をもらい対応しています。訪問看護師による健康管理を週に1回受け、精神科や眼科への専門医への受診は家族の協力を得たりホームで対応し、歯科については全員が月4回口腔衛生や治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護日に、情報を伝えて相談しています。通常は訪問介護とは別の看護師(在宅診療)に随時連絡・報告・相談し指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、ご家族様の了解得てお見舞いに行き、病院関係者との関係づくりをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時重度化指針・看取りケア・緊急時の対応について説明しています。重度化した場合は往診医ご家族様、職員との話し合いをしています。	入居時に重度化や看取り指針に沿って説明し、実際に重度化した際には医師から家族に状況を説明してもらい希望を聞き方針を決定しています。ホームでの看取り支援に入る場合は家族の思いにそいながら計画を作成し、職員とカンファレンスや日々の中で話し合いながら支援に取り組んでいます。看取りの研修はホーム内で年1回行い、外部の研修を受けた場合は伝達し周知しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変の対応には、緊急時マニュアルと在宅診療所コールセンターをスタッフルームに掲示しています。		

グループホームたのしい家佐太中町 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を実施しています。	年に2回消防立ち会いのもと昼夜を想定した訓練を実施し、避難誘導では利用者も一緒に参加しています。地震についても様々な想定について考え、布団を使った避難方法等を話し合っています。訓練については運営推進会議で報告したり、実施の際に近所に案内をしています。また食品やカセットコンロ等の備蓄は2階で管理をしています。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重できるよう、研修などで全職員周知できるようにしています。常に声掛けをし了解えています	接遇マナーやコンプライアンス等に関する研修を行うと共に言葉掛けやプライバシー等に関するセルフチェックを行い管理者と面談で話し合っています。理念の中にも尊厳を守る事を掲げ、言葉掛けについては丁寧語を基本とし、不適切な対応があれば管理者が注意をしています。また同性介助の希望があれば対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々のご利用者様の状態に合わせて、事故決定を促す声かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のご利用者様に合わせて好みのレクレーションを考えたり、本人様らしい生活ができるように取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々で好まれる装飾品や洋服を選んで楽しまれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付けで生活リハビリとして行い、それぞれの、ご利用者様が出来る事を見極め一緒にしています。	旬の物や暦の上での行事食等も考慮された献立にそって業者から食材が届いています。感染症流行の現在調理は一緒に行っていませんが盛り付けや下膳、食器洗いなど利用者に積極的に手伝ってもらい、検食として職員は同じものを食べています。手作りのおやつや惣菜を増やしたり、初物の果物を提供する等利用者の希望にそった支援をしています。また基本は年に2回外食したり、個別での外食にも行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供会社の栄養士によりメニューに基づき栄養バランスを摂っています。補水や毎食の摂取量を把握し、少ない方には声かけを摂取して頂いています。		

グループホームたのしい家佐太中町 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員の口腔ケアを行い、職員が付き添い確認をしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様のサインや行動を把握し、トイレ誘導を行っています。その結果リハビリパンツから布パンへ実践しているご利用者様もおられます。	利用者一人ひとり排泄チェックをし、その方のリズムや時間を見て失敗無くトイレで排泄が出来るように声を掛け支援しています。排泄状況について利用者個々に合わせて職員間で検討し、支援を継続する事により紙パンツを使用している方が布の下着に改善したり、パッドの大きさを工夫する等自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日ごろから水分摂取量の確保を務めると共に、一人一人の排泄の状況に応じて医療機関と連携し指示のもと下剤でコントロールし対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、お湯は毎回入れ替え、入浴剤や季節物などをいれ、ゆっくりと入浴を楽しんで頂いています。	入浴は週に2回を基本に早出の時間帯から夕方まで支援しています。拒否のある方は以前の情報を聞いたり、声掛けの工夫や清拭に変更する等無理の無い入浴に繋げています。湯は一人ひとり入れ替え、季節の菖蒲湯や柚子湯をしたり、好みの石鹸やシャンプーを使用する方もおり入浴を楽しめるよう支援をしています。また希望にそって同性介助の対応をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の好むに合わせて写真や絵など気持ちよく休める部屋づくり、居室・寝具の清潔保持を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関・薬剤師と連携を図り、往診日には薬剤師も来られ、薬の状況確認、薬の変更などの場合全職員に申し送りし周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを中心に、掃除や洗濯干し炊事を職員と共に行い、散歩や買い物で気分転換が図れるように支援しています。		

グループホームたのしい家佐太中町 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の季節行事などの参加、ショッピングモール・喫茶店・他介護施設へも外出支援しています。個々での買い物なども、ご家族様相談の上支援しています。	日々の散歩や買物、管理者が市役所に行く等の際には一緒にドライブがてら出掛けています。初詣やえべっさん、さくらの花見、天満宮での夏祭りや秋祭り等の季節毎の外出や地域行事、秋には公園に遠足等に出掛けています。感染症流行の現在は玄関で外気浴をしたりドライブに出掛ける等気分転換を図ってもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様のお金は金庫に預かっています。買い物の要望があれば、一緒に行き購入できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所持されている方がおられます。ご本人様宛の郵便物はお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように、レクリエーションで折り紙などを使い小物や飾り物をつくり、居室や共用空間に飾り、居心地よく過ごせる空間づくりをしています。	共用スペースには生花や観葉植物を置き、季節に合わせて利用者と一緒に折り紙で作品を作り掲示し季節を感じてもらっています。テーブル配置は利用者の状況を考え職員間で話し合いながら配置し、少し離れた場所にソファを置いています。温湿度計や利用者の体感を確認しエアコンの風を調整したり、利用者と一緒にモップ掛けをする等居心地の良い空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファでテレビを見ながらくつろげる方や居室で休まれる方と、個々ので自由にされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が使われていた馴染みの家具や小物・写真などを置かれています。	入居時に馴染みの物を持って来てもらうよう説明し、利用者は使い慣れたタンスやテレビ、時計、冷蔵庫等を持って来られており配置は家族と一緒にしています。また大切にしている仏壇や家族の写真やアルバムを側置き、アルバムを持参している方もおりの人らしく過ごせる居室になるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリとして炊事や洗濯・掃除を職員と共に行い、各居室にはご本人様と分かりように名前の表示をし、不安なく安全に生活できるように支援しています。		